

S E R I NEWS RELEASE

平成 21 年 5 月 21 日

財団法人静岡経済研究所
理事長 古知弘行
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

2009年ゴールデンウィーク動向調査 ～ 人出は後半を中心に増加し、前年比 + 0.9% ～

二〇〇九年ゴールデンウィーク動向調査

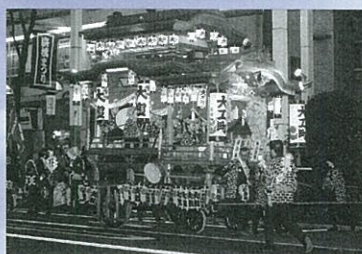
人出は後半を中心に増加し、前年比+0.9%

◆今年のゴールデンウィーク期間中（4/25～5/6）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設240カ所の人出の合計は、延べ569万人、前年比+0.9%の増加となった。

◆イベントや施設の動向（人出）は以下の通りである。

- ① イベント、祭り（35先）……………231万人（前年比△0.3%）
- ② アミューズメント施設、参加・体験型施設（98先）……251万人（前年比+0.7%）
- ③ 動植物園、水族館（23先）……………43万人（前年比+6.7%）
- ④ 博物館、美術館、歴史資料館（46先）……………22万人（前年比+0.8%）
- ⑤ 日帰り温浴施設（38先）……………22万人（前年比+6.4%）

◆今年のGWは、最大16連休となる企業も見受けられるなど、景気低迷下での連休となった。消費者のサイフのひもはまだ固いようだが、こうした中、マイカーで子どもから大人まで家族連れで楽しめるイベントや施設には人出が多かった。今後、長期的なリピーターを増やすためには、“家族で楽しめる”が集客のポイントとなろう。



▲多くの人で賑わいをみせた浜松まつり



▲県内外から多くの人を訪れた富士川楽座



▲様々なイベントで活況を呈した道の駅 伊東マリンタウン

写真提供：社団法人静岡県観光協会

好調な西部地域を中心に、前年水準を確保

今年のゴールデンウィーク（以下、GW）は、期間が4月25日～5月6日と、日数では昨年（4月26日～5月6日）から1日増えて12日となった（図表1）。

しかし、曜日配列から前半の4月25日～5月1日はGWの実感が薄かったためか、後半5月2日～6日の5連休に人出が多くみられた。

また、静岡県を中心としたGWの天候（静岡地方気象台発表）は、前半は比較的好天に恵まれたが、後半は曇りや雨の日が多く、とくに終盤の2日間は雨天となり、屋外型施設は苦戦を強いられるなど、集客に影響を与えた。

静岡県内の主なイベントや観光施設など240カ所の動向を集計すると、期間中の人出は延べ569万人、前年比+0.9%の増加となった（詳細は7頁付表参照）。

地域別では、「浜松まつり」や「浜名湖ガーデンパーク」といった大型イベントや施設で集客を伸ばした西部地域が好調で、人出は前年比+4.5%と増加した（10万人以上集客したイベント、施設は図表2のとおり）。また、中部地域も「ツインメッセ」や「グランシップ」などの屋内施設に人が集まり、同+1.8%

図表1 ゴールデンウィークの曜日配列と静岡市内の天気

	4/25	4/26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6
2009年	土 ☔	日 ☀	月 ☀	火 ☀/☁	水 ☀	木 ☀	金 ☁/☀	土 ☀	日 ☁	月 ☁	火 ☔	水 ☔
	4/25	4/26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6
2008年		土 ☔/☔	日 ☀/☁	月 ☁	火 ☀	水 ☀	木 ☁	金 ☔	土 ☔/☀	日 ☀	月 ☔/☁	火 ☀

…… 平日
 …… 土曜日
 …… 日曜日、休祝日

資料：静岡地方気象台の発表を参考に当所にて作成

となった。一方、東部地域は、後半の天候不順などの影響により、同△3.7%と減少した。

以下では、イベントや観光施設を5つのグループに分けて、今年GWの特徴を整理し、集客への取組みを紹介していく。

1. イベント、祭り（35 先）

前年比 △0.3%

～後半悪天候に見舞われるも、ほぼ前年並み～

イベントや祭りの集客数は、前半は好調な天気恵まれたが、後半2日間が雨に見舞われ、全体で231万人、前年比△0.3%と、ほぼ前年並みとなった。

毎年多くの人を訪れる「浜松まつり」（浜松市）や、「長藤まつり」（磐田市）といった大型イベントでは、遠方からの客足が延びたことなどもあり、前年比プラスとなった。

また、富士山静岡空港開港記念として4月25

日～26日に開催された「世界すし博 in 静岡」（静岡市）では、2日間で5.1万人を集め、「土曜日はあいにくの大雨で、日曜日は風の強い日だったが、大勢の人にお越しいただいた」といった声が聞かれるなど、注目度の高さとおりの人気となった。さらに、今年で9年目を迎えた「松崎町田んぼを使った花畑」（松崎町）では、リピーターや取材が増えて、口コミや各メディアから多くの情報が発信され、人出は同+10.3%と1割程度増加した。

一方、最終2日間の降雨が大きく響き、人出が2ケタ減少したイベントや祭りも少なくない。「浅間大社やぶさめ祭」（富士宮市）では、5月5日と6日に行われた流鏝馬が、雨天のため来場者数が同△20.0%の減少。また、「小室山つつじ祭り」（伊東市）では、5日に予定していたイベントが雨天により中止となったため、GW期間中の来場者数は同△17.6%となるなど、屋外型のイベントや祭りでは苦戦を強いられた。

図表2 静岡県内のGW集客10万人以上のイベント、施設

	イベント、施設名	集客人数	前年比
1	浜松まつり（浜松市）	148.0万人	+5.7%
2	浜名湖ガーデンパーク（浜松市）	15.4万人	+39.7%
3	富士川楽座（富士市）	13.9万人	+4.3%
4	長藤まつり（磐田市）	13.4万人	+13.1%
5	藤まつり（藤枝市）	10.7万人	△28.3%
5	道の駅 伊東マリンタウン（伊東市）	10.7万人	+3.0%

資料：当所アンケート

2. アミューズメント施設、 参加・体験型施設（98 先）

前年比 + 0.7%

～マイカー利用の家族連れで賑わう～

アミューズメント施設や参加・体験型施設の集客数は、全体で251万人、前年比+0.7%の増加と、ほぼ前年並みとなった。

参加・体験型の施設では、「航空自衛隊 浜松広報館」（浜松市）が、5月3日～6日にかけて家族連れで賑わい、来場者数は2.3万人と同+37.1%となった。また、「お茶の郷」（島田市）では、茶摘み体験やクイズ大会といった新茶まつりイベントを開催し、GW期間中の来場者は1.2万人（同+28.4%）と大幅増となった。一方、「静岡県立森林公園」（浜松市）など野外施設では、「雨天が3日あり、昨年に比べて大きな減少要因になったと思われる」といった声も聞かれ、天候により入出が左右された施設も散見された。

道の駅などの交流拠点では、後半5連休にマイカーで出かける人が多くみられたことから、前年を上回った施設が多く、「道の駅 潮見坂」（湖西市）や「道の駅 伊豆のへそ」（伊豆の国市）、「道の駅 ふじおやま」（小山町）などでは来場者数が前年比2ケタ増となった。また、「ツインメッセ静岡」（静岡市）では、5月2日～5日に「巨大恐竜博2009 in 静岡」が開催され、4日間で2.4万人と前年の7倍の来館者を集めた。

キャンプ場では、「今年は5月2日～4日が忙しく、5日～6日は雨天のため入込みが少ない」（田貫湖キャンプ場、富士宮市）など、終盤に勢いを落とした施設が多かった模様だが、全体としては前年並みの人出を確保。また、「友人やグループでの来場よりも、ファミリーでの来場が増えた」（同）ことも今年の特徴といえる。

3. 動植物園、水族館（23 先）

前年比 + 6.7%

～特別イベントで集客を伸ばす～

動物園、植物園、水族館などの来場者数は43

万人と、前年比+6.7%の増加となった。

「浜名湖ガーデンパーク」（浜松市）では、GW期間中に大型イベント「浜名湖フラワー＆ガーデンフェア2009」を開催し、来場者数15.4万人を集め、同+39.7%と大幅な増加となった。また、「伊豆シャボテン公園」（伊東市）では、地元小学生のダンスショーやクイズラリーといったさまざまなイベントを企画し、5月2日～4日の3日間で集客を伸ばし、来場者数2.4万人、同+36.1%の増加。「伊豆海洋公園」（伊東市）では、こどもの日にちなんで5月5日に子供の入園料を無料にするといった取り組みを行い、家族連れの動員を増やした。このように集客効果のあるイベントや工夫を行った施設を中心に、総体的に来場者数が増加した。

一方、後半の悪天候に左右されたのが野外施設で、「浜松市動物園」（浜松市）や「静岡市立日本平動物園」（静岡市）、「三島市立公園 楽寿園」（三島市）などでは、雨の影響により入園者数が1～2割減少した。

4. 博物館、美術館、歴史資料館（46 先）

前年比 + 0.8%

～悪天候について、後半5連休に増加～

博物館、美術館、歴史資料館は、全体としては雨や曇りの日が多かった後半の5連休に人出が多くみられ、全体の入場者数は22万人で、前年比+0.8%の増加となった。

「浜松市美術館」（浜松市）では、期間中の入場者数が3千人で同+226.5%となったが、同館では「5月5日が雨天のため、浜松まつりのお客様が流れてきたように感じる」という。また、「静岡科学館る・く・る」（静岡市）では、入場者数2.0万人、同+35.5%の増加となり、「連休後半は前年比で+45%増。ETC割引に伴う交通渋滞を敬遠して、当館への来場を選択した効果が考えられる」という。

また、催事内容によっても集客に差がみられ、「邦楽和乃会小唄とおどり」を開催した「起雲閣」

(熱海市)では5千人(同+51.9%)の入込みとなり、20～30歳代の比較的若い世代の来場者が増えたという。また、「浜松市博物館」(浜松市)では、「寺社彫刻」や「昭和のめんこ」、駄菓子屋や昭和のおもちゃ体験などの「昭和レトロな博物館」といった子供から大人まで楽しめるさまざまなイベントを開催し、入場者数8千人(同+15.6%)となった。「よみがえる黄金文明展」を開催した「静岡県立美術館」(静岡市)も、入場者数1.6万人(同+6.2%)を集め、こどもの日スペシャルとして5月3日～6日に、中学生以下の来場者に展示内容に合わせたブルガリアコインのプレゼントを実施し、人気となった。

5. 日帰り温泉施設 (38 先)

前年比 + 6.4%

～GW期間中を通じ好調、前年を上回る～

温泉地の日帰り温泉や都市部のスーパー銭湯など、手軽なレジャー施設として人気を集める日帰り温泉では、来場者数は22万人、前年比+6.4%の増加となった。天候の良し悪しに左右されず、期間を通して客足が伸びたことや、昨年、ガソリン高の影響で客足が伸び悩んだことからの反動増があったとみられる。

春まつりを開催した「梅ヶ島新田温泉 黄金の泉」(静岡市)では、山菜の天ぷらを無料でサービスしたり、しいたけの串焼きやヤマメの塩焼き販売など多様なイベントで集客を伸ばし、5千人(同+14.5%)が来場した。また、「川根温泉ふれあいの湯」(島田市)では、屋外テントで新茶試飲即売会や抹茶わらび餅販売会などを開催し、多くの人出でにぎわい、入場者数は1.9万人(同+3.1%)の入込みとなった。

一方、大自然の中の露天風呂「森の都温泉ならこの湯」(掛川市)では、「後半の5月2日～6日は、キャンプ客を中心に入場者数は昨年の11%増」と、近隣のキャンプ場の客を取り込んで全体の入場者数は6千人(同+13.4%)となった。また、「大東温泉シートピア」(掛川市)では、

コラム

E T C割引※導入効果は限定的

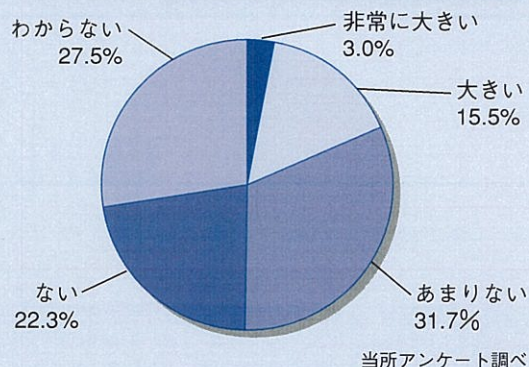
今回のゴールデンウィーク動向調査において、各施設やイベントの運営団体に、高速道路のE T C割引導入による集客効果をきいたところ、「非常に大きい」は3.0%、「大きい」は15.5%にとどまった。一方、「あまりない」と「ない」は合わせて54.0%と過半数にのぼり、「わからない」は27.5%で、運営側の多くはE T C割引の効果をあまり実感していないことがわかった。

浜松まつりや長藤まつりといった、比較的大型で全国的にも認知度が高いイベントや施設では、「E T C割引導入に伴い、他県から訪れる来客数が増加した」、「遠方からのマイカー客が増えた」といった声が聞かれたが、そのほか県内の施設やイベントでは「例年とさほど変化はみられなかった」など、E T C割引のメリットの享受は薄かったようだ。

県内でも、とくに観光施設の多い伊豆地域では、予想していたよりは少ない入込みとの声が多く聞かれ、首都圏からの客が多いある施設では、「近くの伊豆より、遠くの国内旅行という傾向が強いように感じた」との意見もあり、人の流れに大きな変化はなく、県内の集客施設にとってはE T C割引導入効果は限定的だったとみられる。

※E T C (自動料金収受システム) 装着車を対象に、土日祝日の高速道路の通行料金が上限1,000円になる割引制度。

高速道路の「E T C割引」導入による集客効果について



ボニー乗馬体験や木工市などのイベントが盛況で家族連れが多く、さらに終盤に続いた雨により最終2日間で客足が伸び、入場者数1.3万人（同+3.9%）にのぼった。

一般的に悪天候の際には客足が伸び悩むとみられていた温浴施設だが、全体を通してみると、GW後半で来場者を集めた施設が多かった。

また、温浴施設が多い東部地域では、前年比2ケタ増となる施設もみられたが、一方で「ETCの導入にあたり、あまりお客様が多くなく、昨年より車もお客も減少していると思われる」（伊豆の国市営温泉めもと湯の館）といった声も聞かれた（前頁コラム参照）。

交通機関の利用状況は高速道路と鉄道で明暗

交通機関の利用状況をみると、4月25日～5月6日までの東名高速道路の交通量は、1日平均93,100台、前年比では+5.8%と前年を上回った。今年は連休自体が長かったことや、ETC割引が導入されたことで交通量が増え、県内でも長い渋滞が発生した。

ETC割引の影響は、東名高速道路以外の有料道路、鉄道、フェリーの利用客減少という形で表れた。まず、県内の有料道路の交通量は、全体で前年比△4.8%の減少となった。唯一増加したのは「浜名湖新橋（はまゆう大橋）」（同+12.6%）で、これは「浜名湖ガーデンパーク」への入込みが好調だったことによる。一方、東部地区の有料道路は、伊豆中央道や修善寺道路、伊豆スカイラインなどすべてで交通量が減少し、東部全体では同△3.3%落ち込んだ。

鉄道では、JR東海静岡支社管内における4月24日～5月6日までの新幹線の利用状況は、333.1万人と前年比で△7%の減少、在来線の特急列車も△10%減少した。また、清水港－土肥港を結ぶ海路の「駿河湾フェリー」（株エスパルスドリームフェリー）は、GW終盤はほぼ満船状態の稼働率だったが、昨年末に2隻から1隻体制へと移行したことで、旅客は同△39.2%減

少、車両も同△40.1%となり、輸送人員は同△39.1%減少した。

“家族で楽しめる”が集客のポイント ～将来のリピーターも視野に～

今年のGWは、家計所得に対する不安から消費マインドが冷え込み、また、生産活動抑制・調整から最大16連休（4月25日～5月10日）となる企業もあるなど、景気低迷下での連休となった。

こうした中、高速道路のETC割引制度やガソリン価格の安定、定額給付金の支給といった要因は、レジャー需要を喚起し、人々の外出をうながしたようだ。また、海外旅行客数も、新型インフルエンザの影響を受けたものの、円高や燃油サーチャージの引下げ、後半5連休という日並びの良さから、ほぼ前年並みと健闘した。

しかし、今回の調査によれば、イベントや施設の運営団体側では、来場者の消費金額（客単価）に関して「昨年並み」か「やや下がった」と感じている回答が7割近くにのぼっており、消費者のサイフのひもはまだ固いようだ。

一方、マイカーで、子どもから大人まで家族連れで楽しめるイベントや施設に人出が多かったことも特徴である。1年の中で親子がゆっくり接することのできる数少ない期間であるGWは、ショッピングや外食にお金をかけるより、家族で文化や芸術、自然などにふれあい、地域のイベントへの参加・体験を通して、豊かな人間性を育むとともに、改めて家族で過ごす時間を大切にする機会となっている。イベントや施設の運営側にとっては、子どもがファンとなり長期的なりピーターとなってくれば、合わせて家族も来訪してくれる効果が期待できる。

また、この6月の富士山静岡空港の開港により、新たに空の玄関口が開かれることとなり、今後は国内外からさらなる誘客が期待される。本県の観光施設やイベント、文化、芸術、自然といった財産にさらに磨きをかけ、人を呼び込めるような魅力を高めていくことが望まれる。

付表 2009年GW 静岡県内イベント・観光施設の入出

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
富士川楽座	富士市	139,216	+4.3
道の駅 伊東マリンタウン	伊東市	106,700	+3.0
浅間大社 やぶさめ祭	富士宮市	80,000	△ 20.0
富士スピードウェイ	小山町	78,500	△ 10.8
小室山つつじ祭り	伊東市	77,900	△ 17.6
姫の沢公園	熱海市	71,000	+ 6.8
キラメッセぬまづ	沼津市	41,650	△ 19.6
富士山こどもの国	富士市	37,093	△ 8.5
道の駅 ふじおやま	小山町	35,347	+ 12.5
伊豆修善寺サイクルスポーツセンター	伊豆市	26,572	+ 5.1
修善寺 虹の郷	伊豆市	25,910	+ 2.7
こいのぼりフェスティバル	沼津市	24,600	+ 20.0
伊豆シャボテン公園	伊東市	24,105	+ 36.1
伊豆・三津シーパラダイス	沼津市	23,084	+ 4.8
ベイ・ステージ下田	下田市	21,665	+ 10.8
伊豆ぐらんぱる公園	伊東市	20,243	△ 0.9
伊東温泉競輪	伊東市	16,953	+ 19.6
下田海中水族館	下田市	15,189	+ 7.0
伊豆バイオパーク	東伊豆町	15,066	△ 5.8
田貫湖キャンプ場	富士宮市	14,020	+ 5.6
松崎町田んぼを使った花畑	松崎町	13,888	+ 10.3
三島市立公園 楽寿園	三島市	13,408	△ 22.8
酪農王国 オラッチェ	函南町	13,244	△ 25.9
恋人岬	伊豆市	11,676	△ 22.4
大仁瑞泉郷	伊豆の国市	10,683	△ 10.4
初島ところ天まつり	熱海市	9,989	+ 18.1
沼津港大型展望水門「びゅうお」	沼津市	9,118	+ 19.8
アカオハーブ&ローズガーデン	熱海市	9,057	+ 15.5
春の大通り商店街まつり	三島市	9,000	△ 55.0
下田ローブウェイ	下田市	8,825	△ 4.0
土肥金山	伊豆市	8,458	△ 2.9
沼津御用邸記念公園	沼津市	8,457	+ 4.3
マリンスパあたま	熱海市	8,292	+ 14.6
秩父宮記念公園	御殿場市	7,479	△ 12.2
港の朝市	東伊豆町	7,133	+ 9.7
富士山天母の湯	富士宮市	6,717	+ 14.9
河津バガテル公園	河津町	6,447	△ 7.7
ごてんば市温泉会館	御殿場市	6,369	+ 4.8
金太郎春まつり	小山町	5,800	+ 16.0
初島アイランドリゾート	熱海市	5,349	△ 25.2
道の駅 伊豆のへそ	伊豆の国市	5,346	+ 16.2
伊豆高原ドッグフォレスト	伊東市	5,058	△ 16.9
伊豆市 湯の国会館	伊豆市	5,028	+ 26.2
東部地域その他 81カ所		893,865	—
東部地域 合計		1,983,499	△ 3.7
藤まつり	藤枝市	106,900	△ 28.3
春の焼津さかなセンター祭り	焼津市	80,787	+ 0.6
グランシップ	静岡市	63,187	+ 114.9
世界すし博in静岡	静岡市	51,200	—
静岡市立日本平動物園	静岡市	41,112	△ 14.6
MOVIX清水	静岡市	34,808	△ 4.1

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
さがら草競馬大会	牧之原市	27,000	+ 3.8
草薙総合運動場	静岡市	26,010	△ 2.5
クア&ホテル駿河健康ランド	静岡市	25,838	+ 6.7
日本平スタジアム	静岡市	24,885	△ 28.4
ツインメッセ静岡	静岡市	23,874	+ 602.4
静岡科学館る・く・る	静岡市	20,339	+ 35.5
川根温泉 ふれあいの泉	島田市	18,693	+ 3.1
静岡県立美術館	静岡市	16,060	+ 6.2
東海大学社会教育センター	静岡市	15,617	△ 13.5
久能山東照宮	静岡市	15,150	+ 3.0
体験工房 駿府匠宿	静岡市	15,118	△ 21.9
静活(映画館)	静岡市	14,055	+ 11.1
お茶の郷	島田市	11,911	+ 28.4
ディスカバリーパーク焼津	焼津市	11,754	△ 17.2
瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	9,509	+ 8.6
中部地域その他 31カ所		343,502	—
中部地域 合計		997,309	+ 1.8
浜松まつり	浜松市	1,480,000	+ 5.7
浜名湖ガーデンパーク	浜松市	154,201	+ 39.7
長藤まつり	磐田市	133,500	+ 13.1
道の駅 潮見坂	湖西市	59,862	+ 17.6
浜名湖競艇場	新居町	52,578	+ 0.4
静岡県立森林公園	浜松市	51,000	△ 20.3
浜松オートレース場	浜松市	40,186	△ 16.0
浜松市動物園	浜松市	35,282	△ 7.2
TOHOシネマズ 浜松	浜松市	31,708	+ 1.7
掛川花鳥園	掛川市	29,070	△ 13.2
掛川戦国城下市	掛川市	27,000	± 0.0
航空自衛隊 浜松広報館	浜松市	23,445	+ 37.1
浜松市フラワーパーク	浜松市	20,886	△ 22.5
道の駅 掛川	掛川市	20,569	+ 9.1
浜岡原子力館	御前崎市	19,892	+ 2.1
はままつフルーツパーク	浜松市	19,410	△ 8.8
竜ヶ岩洞	浜松市	16,761	△ 0.3
あらたまの湯	浜松市	13,688	+ 5.9
大東温泉シートピア	掛川市	13,043	+ 3.9
採れたて元気村	磐田市	12,850	+ 4.5
掛川城	掛川市	8,393	△ 6.5
天竜相津 花桃の里	浜松市	8,299	△ 13.6
浜松市博物館	浜松市	7,949	+ 15.6
いっぶく処横川	浜松市	7,635	△ 12.4
浜松城	浜松市	7,196	+ 3.6
浜名湖体験学習施設ウォット	浜松市	6,941	△ 3.9
浜松アリーナ	浜松市	6,034	△ 7.6
森町体験の里 アクティ森	森町	6,020	+ 3.4
森の都温泉 ならこの湯	掛川市	5,949	+ 13.4
浜松市楽器博物館	浜松市	5,607	+ 3.3
浜松スポーツセンター	浜松市	5,343	△ 6.4
西部地域その他 33カ所		377,748	—
西部地域 合計		2,708,045	+ 4.5
静岡県 合計		5,688,853	+ 0.9

注1) 上記付表は、データの公表が可能な入込客数が5,000人以上の施設、イベントのみを掲載した。

注2) 各地域の最下部には、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可とした施設やイベントの数字を合算して記載した。

注3) 入出の合計値は本年度の実数が把握可能なすべての数値を合算、前年比は本年と前年の両数値が把握可能な施設のみで算出。

調査方法：GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、390先に調査票を郵送、うち240先から回答を得た（回答率61.5%）。